

## 医学科2年生感想文

○「英語力にありき」、それが授業を受けた後の感想である。外国から先生をお招きするという話がかねがね續教授から伺っており、それなりの覚悟はしていたのだが…。

授業前に配布された資料に目を通すことでミラー先生のおっしゃることをある程度は理解できたのだが、100%とは程遠く、自分の「日本語に対する甘え」を痛感する結果となってしまった。

基礎にせよ臨床にせよ、研究の最先端はすべて英語であることを耳にする。英語に疎いことは即ち世界から「おいてけぼり」をくってしまうということ。

今回の授業はよい意味での危機感を感じさせてくれ、またそれが英語学習への意欲を高めるカンフルとなったという点で本当に素晴らしいものであったと私は思う。(大村 洋文)

○講義が始まる前まで、正直なところ、とても不安だった。大学で英語の講義を受けているとはいえ、listeningの力不足は否めない。日常会話でも決して楽ではないのに、聞いたこともない専門用語が次々と出てきたらお手上げになるのは目に見えている。ましてや内容まで理解するなんて、と半ばあきらめていた。

ところが、Miller先生が実際に講義を始められると、私はすっかり先生の話に引き込まれてしまった。先生のやわらかい語り口や楽しそうな表情に、つい先ほどまで感じていた不安など吹き飛んで、いつの間にか夢中で耳を傾けていた。何よりも、複雑な現象が、日常的に使う単語で簡潔に表現されていることに驚きを覚えた。同じ現象に関する日本語の説明と比べても、よりシンプルでわかりやすく、新鮮に感じられた。英語という言語が、いかに論理的な表現に向いているかを実感した。

今までは、目にする論文や医学書が英語で書かれているというだけで、何となく英語と向き合ってきた。しかし今回Miller先生の講義を受けたことで、英語で論じることに新たに意義を発見し、自発的に勉強する意欲がわいた。英語に対する姿勢を今一度反省し、次回このような機会を得たときには、もっともっと多くのことを吸収できるようになりたいと思う。(寺田 悠紀子)

○Prof. Lees-Miller の講義を受け、私自身の英語力のなさを感じました。教授の発音はとてもきれいで、一文一文は聞き取れます。英文レベルもそこまで難しくありません。しかし、全体を通すと、講義内容が理解できないところが多々生じていました。おそらく、聞き取れてはいても、自分の能力の限界で、それ以上の余裕がなかったためだと思います。また英語で質問するとなると、さらに苦勞しました。さらっと質問することがなかなかできず、もどかしさを覚えました。そんな私にでも教授は親切にも論文を紹介していただきました。ありがとうございました。

語学ができなかったら、それだけでマイナスです。英語は必須です。論理や読解力その他、自分の力を高めるためにも、もっと意識的に、徹底的に学ぶ必要性を感じました。

今後も英語による講義が行われることを期待します。できれば、一つの科目だけでもすべて英語で行われるようになると、英語力の維持、向上につながるのではないかと考えます。(Y. E.)